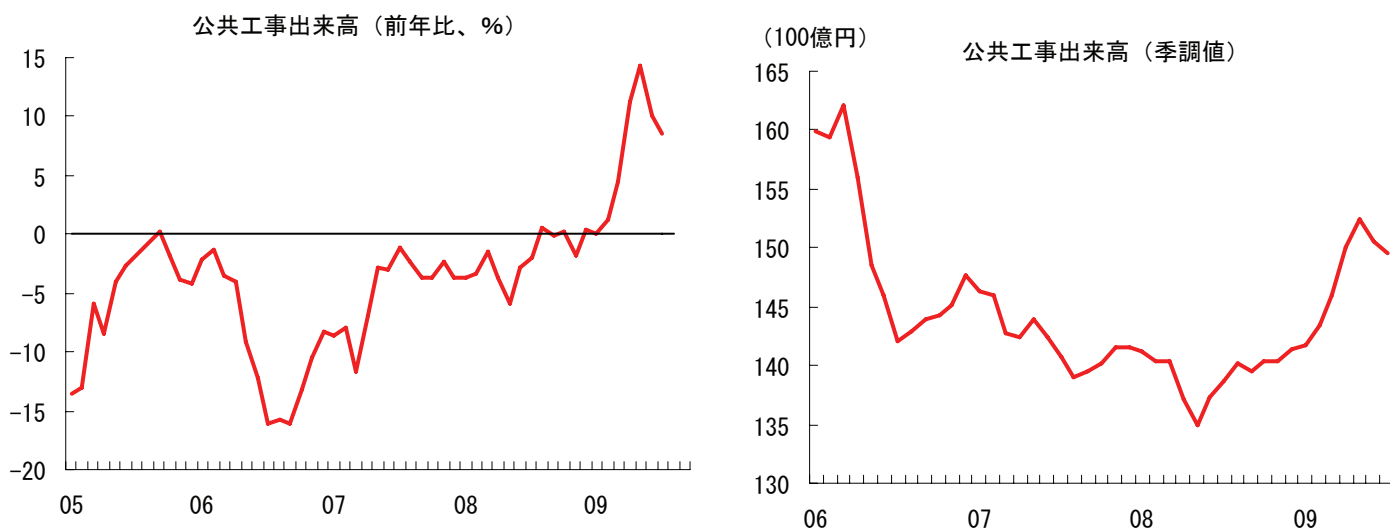


○ 公共工事出来高の伸びが2ヶ月連続で鈍化

本日、国土交通省から公表された建設総合統計では、7月の公共工事出来高が前年比+8.5%となり、2ヶ月連続で伸びが鈍化した（5月：+14.3%、6月：+10.1%）。季節調整済み前月比（季節調整は当社による）でみても▲0.7%と2ヵ月連続の減少である。この結果、7月の水準は4-6月平均の値を▲0.9%下回っている。経済対策効果を背景として大幅な増加が続くと予想されていただけに、期待外れの結果と言えるだろう。5月までの公共投資は、08年度補正予算で積み増された公共投資予算の執行が進んだことにより大幅に増加していたが、その効果はどうやら出尽くしたようだ。筆者は、08年度補正予算の効果が切れる一方で、09年度本予算の前倒し執行の効果が出てくることから、7-9月期も公共投資の大幅増加が続くと考えていたが、今のところ予想を下回る展開になっている。

公共工事出来高は工事の進捗段階の動向を表す統計であり、GDP統計における公的固定資本形成の基礎統計にもなっている。6、7月の公共工事出来高の結果を見る限り、7-9月期のGDPベース公共投資は、4-6月期（前期比+7.5）から伸びが大幅に鈍化する可能性が高まっている。前期比で減少に転じる可能性も否定はできないだろう。筆者を含め、7-9月期のGDP成長率は公共投資の押し上げもあって高成長になるとの見方が多いだけに、気がかりな動きである。



○ 請負金額も伸び悩み

また、公共事業の発注段階の動向を示す統計である公共工事前払金保証統計（9月15日公表）によると、8月の公共工事請負金額は前年比+8.7%と、7月の+2.5%から伸びが拡大した。しかし、4月の同+20.5%をピークとして伸びは鈍化傾向にあるようだ。季節調整値（季節調整は当社による）でみると、4月まで急増した後は横ばい圏内の動きになっている。減少に転じているわけではないが、一段と水準を切り上げる展開にはなっていない。筆者は、09年度補正予算の効果が出ることから、請負金額は大幅に増加する可能性があるかと予想していたが、こちらもやや期待外れの結果に終わっている。

公共投資の先行きについては、民主党政権が09年度補正予算の執行を一部凍結する方針を打ち出すなど、不透明感が非常に強い状況にある。公共投資関連統計の注目度は今後増してくるだろう。

